

## 沖縄周辺海域のザトウクジラについての論文が 日本哺乳類学会 論文賞を受賞

一般財団法人 沖縄美ら島財団（沖縄県本部町）の研究グループが学術誌 Mammal Study に発表したザトウクジラの分布等に関してまとめた論文が、平成 29 年度日本哺乳類学会（会員数約 1000 名）論文賞を受賞しました。

同研究では、沖縄周辺海域で実施されてきたザトウクジラ調査結果をもとに、ザトウクジラの分布状況について詳細を報告しました。21 年に渡る長期データから、観察の難しい大型海棲哺乳類の基礎生態学的知見を得た点や、ホエールウォッチング等の人間活動を見直す上で貴重なデータを提供している点が特に優れていると評価され、受賞となりました。

### ■発表雑誌■

雑誌名：Mammal Study

掲載号：Vol. 41, 207-214.

論文名：Spatial distribution and habitat use patterns of humpback whales in Okinawa, Japan

著者名：（一財）沖縄美ら島財団

総合研究センター 動物研究室 小林希実

総合研究センター 動物研究室 岡部晴菜

水族館事業部 魚類チーム 河津勲

国営公園管理部 動物管理チーム 東直人

常勤参与 宮原弘和

研究顧問 内田詮三

国立大学法人東京海洋大学 鯨類学研究室 教授 加藤秀弘

### ■ポイント■

- 沖縄周辺海域のザトウクジラの分布状況について明らかにした論文が第 9 回日本哺乳類学会論文賞を受賞した。平成 21 年度より開始された同賞は、学術誌 Mammal Study に掲載される年間約 30 編の中から、編集委員 16 名が推薦する計 2 編に対して授与されているもので、平成 29 年度は本論文を含む 2 編が受賞した。
- オスや子供を連れないメスは沖合に分布する一方、新生児を連れたメスは水深 100 m より浅い沿岸に分布することが明らかになった。このことから、子育て中のメスは、オスからの接近や沖合の荒海を避け、沿岸を選択していると推察された。本研究は、鯨類の科学的調査において非致命的な手法を用いた点が、海外の研究者からも高い評価を受けている。
- 長期にわたる本調査・研究は、地元ホエールウォッチング事業者のみならず、多くの方のご協力のもと継続することができた。本研究の成果は、沖縄の観光産業にとって重要な位置を占めるザトウクジラの資源管理や保全活動に役立つと期待される。

### ■代表研究者プロフィール■

小林 希実（こばやし のぞみ）：

2015 年より（一財）沖縄美ら島財団総合研究センター勤務。2017 年、東京海洋大学大学院にて博士号（海洋科学）取得。専門は鯨類の生活史、鯨類の音響行動学的研究。

<お問い合わせ> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報 IT 課 菅間・又吉  
TEL 0980-48-3649 / FAX 0980-48-2200

### <研究の背景>

ザトウクジラは、水中での直接観察が難しいことから、その行動については未だ解明されていない事が多いのが現状です。

ザトウクジラの繁殖海域の一つである沖縄周辺海域では、例年1月～4月にその来遊が確認され、当財団では、1991年～2012年の約21年にわたり、調査を実施してきました。

ザトウクジラの尾びれの腹側に見られる模様や後縁の形状は各個体で異なるため、収集した尾びれ写真を地道に照合することで個体を識別することができます。私たちの研究グループでは、この特徴を利用した個体識別法と行動観察により、これまでに1286個体を識別、その内178個体の雌雄を判別しました。さらに性別および子連れ群といった群れの構成を分類し、それぞれの分布状況について水深データ等を用いて解析しました。



ザトウクジラの尾びれ腹側の模様

### <研究成果の概要>

解析の結果、沖縄周辺海域では、新生児を連れた子育て中のメスが島に近く水深100mより浅い海域に分布していることがわかりました。一方、オスや新生児を連れていないメスは、より沖合の海域に分布しており、子育て中のメスとは異なる海域を利用していることがわかりました。これらのことから、新生児を連れた子育て中のメスは、性的に活発なオスの接近や沖合の荒れた海況を避け、沿岸域で子育てのためにエネルギー消費を抑えている可能性が推察されました。これに対し、オスや新生児を連れていないメスは、共に沖合に分布し、交尾などの繁殖活動を行っていることが示唆されました。



ザトウクジラ調査の様子

### <受賞について>

地元住民の皆様やホエールウォッチング事業者の皆様をはじめ、多くの方々のご協力のもと、21年間に及ぶ調査を継続できたことが、これまで不明な点の多かったザトウクジラの繁殖生態解明や、この度の論文賞の受賞につながったと考えています。



論文著者である財団職員一同

### <今後の展開>

本研究の成果は、ホエールウォッチングの対象として注目され、沖縄の冬場の観光資源として重要な位置を占めるザトウクジラの資源管理や保全活動の一助となることが期待されます。

(一財)沖縄美ら島財団では、調査研究事業で得られた情報を、講演会などを通じて積極的に発信しています。これらの活動を通して、沖縄に来遊するザトウクジラの興味深い生態を一般に広めると共に、ザトウクジラを含む沖縄の自然環境保全に対する意識の向上に貢献できればと考えています。